

## P B L

ここでのPBLはProject Based Learning（課題解決型学習）を取り上げます。課題を設定し、解決する為の企画を立案します。そのプロセスの中で、特に課題を見つけ出す力や情報を使いこなす力、他者と協同する力などの行動的知性の獲得を目指します。

学生は成果にとらわれがちになりますので、教員はプロセスを重視することを伝える必要があります。また、PBLには様々なやり方がありますが、学生の主体性や自由な発想を大切にするために、最初から教員が教えるのではなく、学習の進捗や疑問に応じてポイントを伝えていく重要性は共通して言えることではないでしょうか。

### 国際学部農学部連携国際協力人材基礎力強化プログラム

※平成29年度から「国際協力の実際と課題」として開講

担当者：福村一成先生（農学部）、栗原俊輔先生（国際学部）

国際学部と農学部の混成チームを作り（1チーム6名程度）、両者の視点を活かしながら話し合い、学生はどのような国際協力ができるかについて話し合いました。Project Cycle Management（PCM）という手法の一部を用いて進められました。PCM手法とは、問題の発見、問題の解決に向けたプロジェクトの企画、実施、評価という一連のプロセスを行うためのツールで構成されている手法です。

問題と原因を分析する「プロブレムツリー」というツールがあります。問題となっていることを取り上げ、そこから原因を掘り下げていくと、根本的な原因の発見に繋がり課題を設定しやすくなります。

また、プロブレムツリーを用いて説明することで、第三者にとっても課題設定の妥当性を理解しやすくなります。プロブレムツリーを作成する際は付箋を使うと便利です。貼ってはがして、移動させて貼り直すことも可能です。

